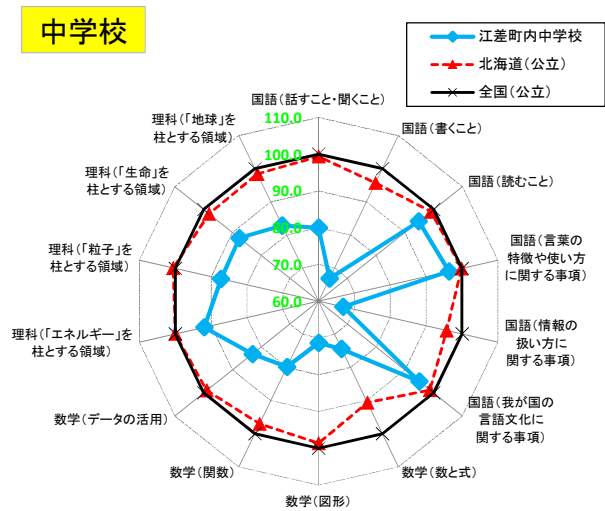
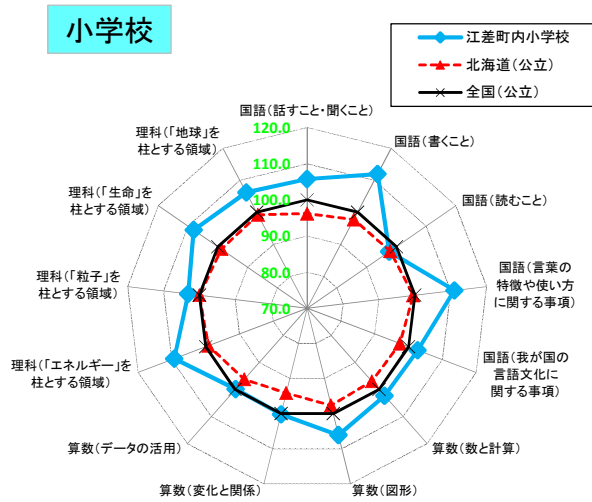


■江差町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:35人）（中学校数:2校、生徒数:45人）

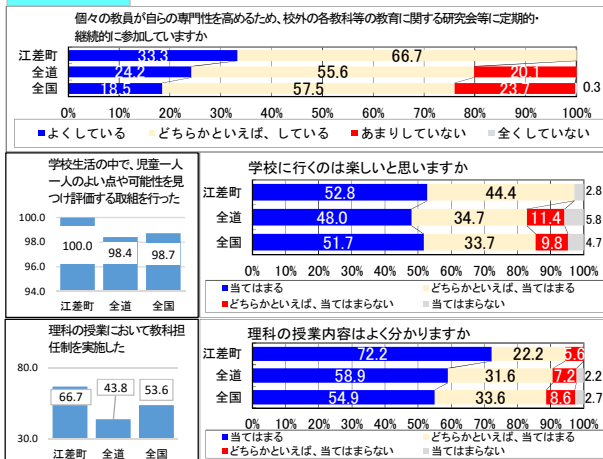
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

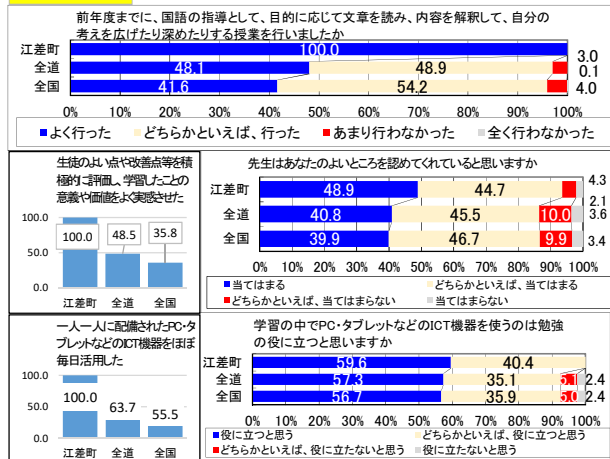


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
町内の全ての小学校で、個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等に関する研究会等に定期的・継続的な参加をしたことにより、授業力が向上し、国語・算数・理科の10領域2事項の平均正答率が、全国及び全道を上回ったと考えられる。
町内の全ての小学校において、前年度までに、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行ったことにより、学校に通うことが楽しいと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
町内の多くの小学校で、理科の授業において、前年度に、教科担任制を実施したことにより、理科の授業がよく分ると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
町内の全ての中学校において、前年度までに、国語の指導として、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して、自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったことにより、国語科の「読むこと」の領域において、全国及び全道と同等の水準となったと考えられる。
町内の全ての中学校において、生徒のよい点や改善点を積極的に評価し、学習したことの意義や価値をよく実感させたことにより、先生はあなたのよいところを認めてくれていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
町内の全ての中学校において、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

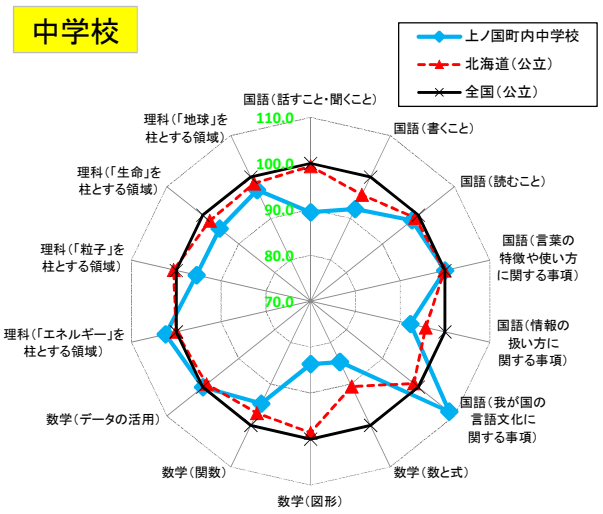
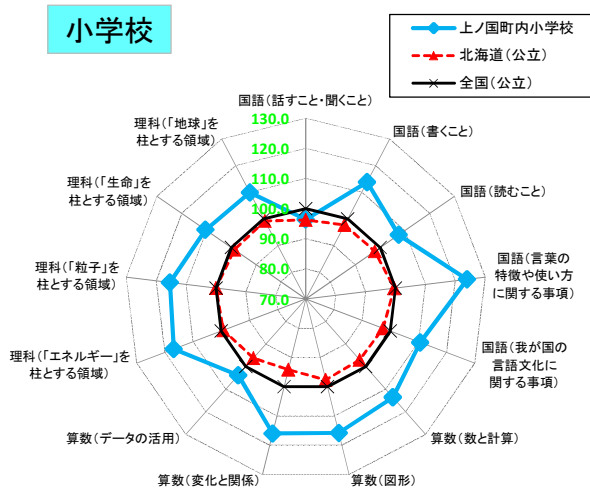
【江差町の学力向上策】

- ◎ 小中一貫教育及び小中連携事業「トライアングルサポート」の継続と充実
- ◎ 各種調査の結果分析及びICT機器の活用等による授業改善の方策を検討する「江差町学力向上対策会議」等の開催
- ◎ 望ましい学習習慣や生活習慣の確立に向けた家庭への啓発及び家庭との連携

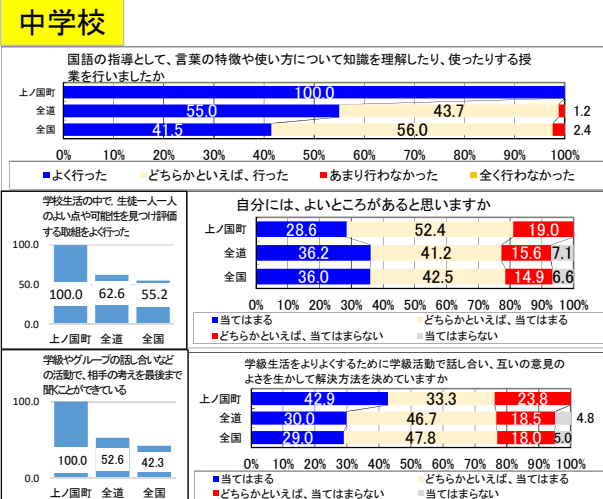
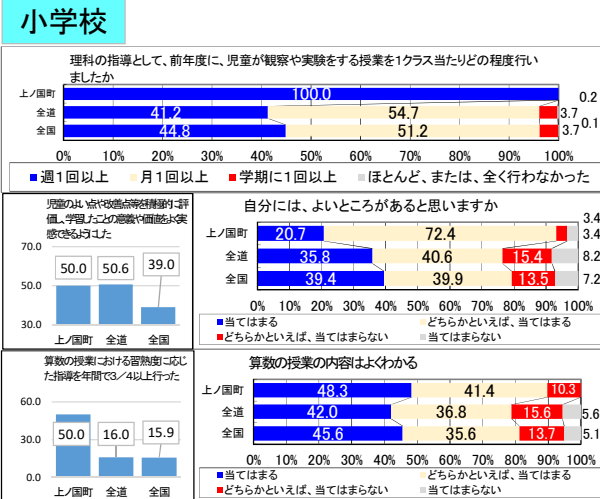
■上ノ国町内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：29人）（中学校数：1校、生徒数：21人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
町内の小学校の理科の指導において、前年度に、観察や実験をする授業を週1回以上行ったことにより、理科の全ての領域において全国及び全道を上回ったと考えられる。
町内の小学校において、児童のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値をよく実感できるようにしたことにより、自分には、よいところがあると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
町内の小学校において、算数の授業における習熟度に応じた指導を年間3/4以上行い、児童の実態に応じた授業を進めたことにより、算数の授業内容はよく分かったと回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
中学校の国語科の指導において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり、使ったりする授業をよく行ったことにより、国語科の「言葉の特徴と使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」において全国及び全道を上回ったと考えられる。
中学校において、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけて評価する(褒めるなど)取組をよく行ったことにより、自分にはよいところがあると思いますかの項目において、肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
中学校において、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞く態度を育んだことにより、学校生活をよりよくするために学級活動での話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【上ノ国町の学力向上策】

- ◎ 学校におけるTT、少人数指導、特別支援教育や地域における英語塾等を活用した学習支援の充実
- ◎ ICT機器の効果的な活用による考えの共有など協働的な学びの実現
- ◎ 保育所・小学校・中学校・高等学校が連携・接続した児童生徒の実態把握と授業交流の実施

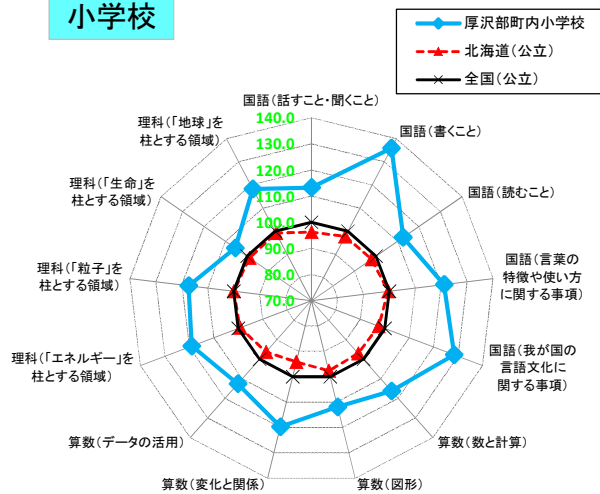
■厚沢部町内の状況及び学力向上策（小学校数：3校、児童数：22人）（中学校数：1校、生徒数：24人）

【教科全体の状況】

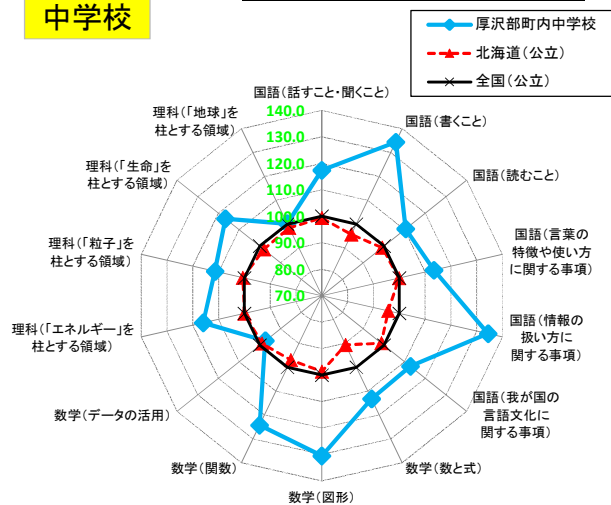
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	79	79
算数・数学	72	59
理科	73	55

小学校

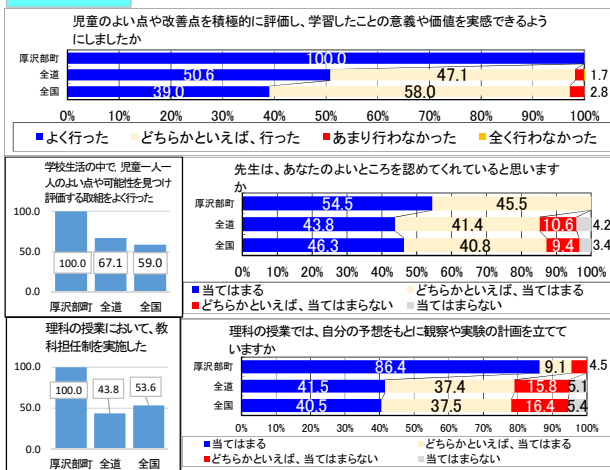


中学校

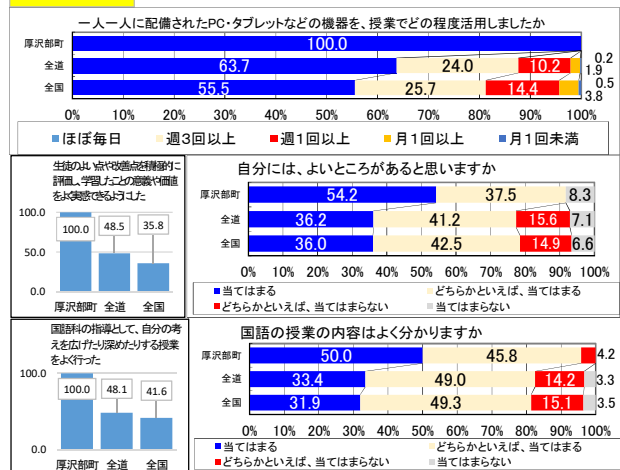


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町内の全ての小学校において、児童のよい点や改善点を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、全ての領域・事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町内の全ての小学校において、児童のよい点や可能性を積極的に評価するなど、個人内評価を充実させたことにより、先生は、あなたのよいところを認めてくれていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町内の全ての小学校において、理科における教科担任制を実施し、専門性を生かした質の高い授業を日常的に行ったことにより、理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

中学校において、一人一人に配備されたPCやタブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用し授業改善を進めたことにより、10領域3事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校において、生徒のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値をよく実感できるよう一人一人の教育的ニーズに応じた教育を進めたことにより、生徒の自己肯定感が高まり、自分には、よいところがあると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校において、国語科の指導として、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業をよく行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

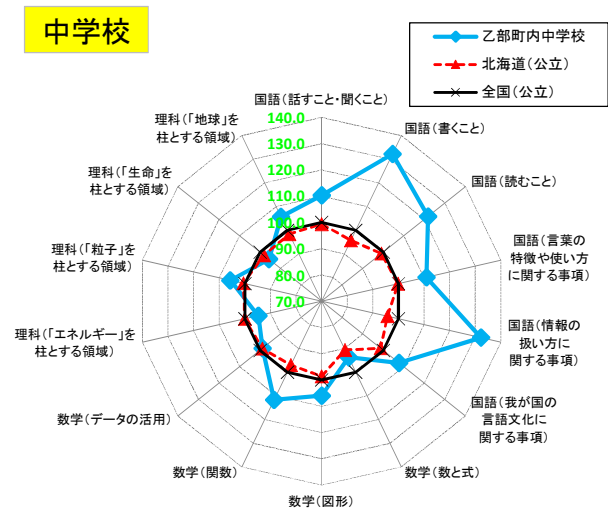
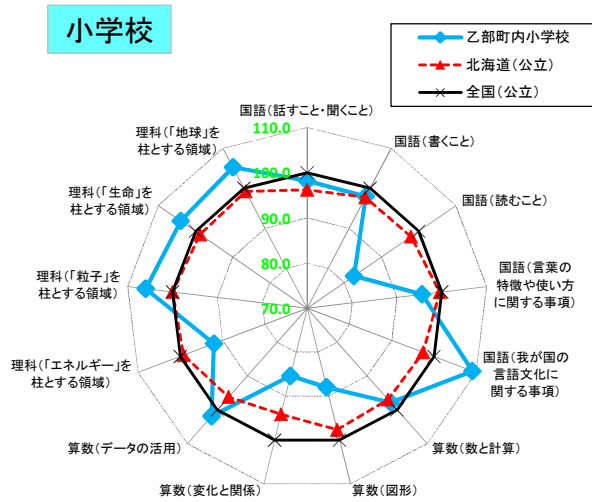
【厚沢部町の学力向上策】

- ◎ 小中一貫教育推進ユニットを中心とした、小中一貫教育の推進
- ◎ 習熟度別少人数指導やチーム・ティーチング等による「個別最適な学び」と「協同的な学び」の充実
- ◎ 町内におけるICT機器を計画的・組織的に活用した授業改善の推進

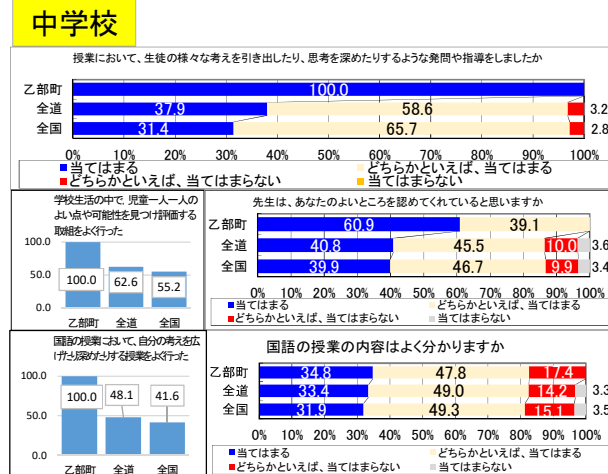
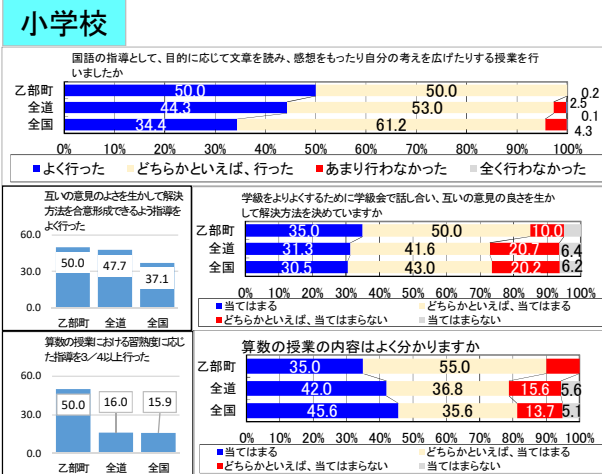
■乙部町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:20人）（中学校数:1校、生徒数:26人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町内の全ての小学校において国語の指導として、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行ったことにより、「我が国の言語文化に関する事項」が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

町内の小学校において、学級会での話し合いで、互いの意見のよさを生かして解決方法を合意形成できるような指導をよく行ったことにより、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町内の小学校において、算数の授業における習熟度に応じた指導を年間3/4以上行い、児童の実態に合った授業を進めたことにより、算数の授業の内容がよく分かりますかの項目において、肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

中学校において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしたことにより、7領域3事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校において、生徒一人一人の良い点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組をよく行ったことにより、先生は、あなたのよいところを認めてくれていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校の国語科の指導において、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業をよく行ったことにより、国語の授業の内容がよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【乙部町の学力向上策】

- ◎ 個に応じた指導の充実と対話的な学習活動の指導方法の工夫改善
- ◎ 教科横断的指導の充実を図り、ふるさとの魅力を発信する活動の推進
- ◎ GIGAスクールサポートを活用した、1人1台端末の効果的な活用の推進

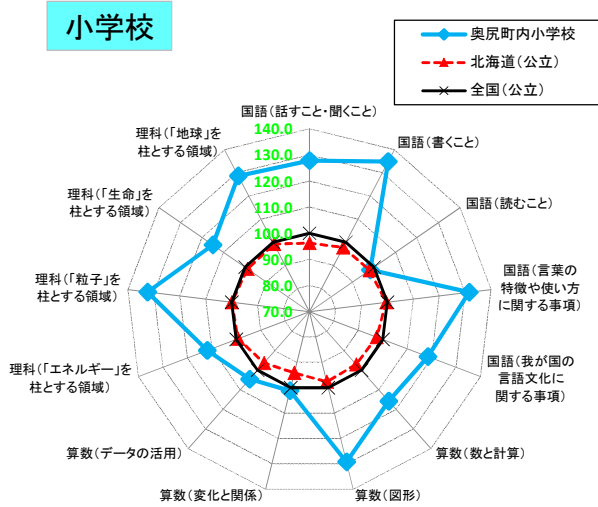
■奥尻町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:13人）（中学校数:1校、生徒数:6人）

【教科全体の状況】

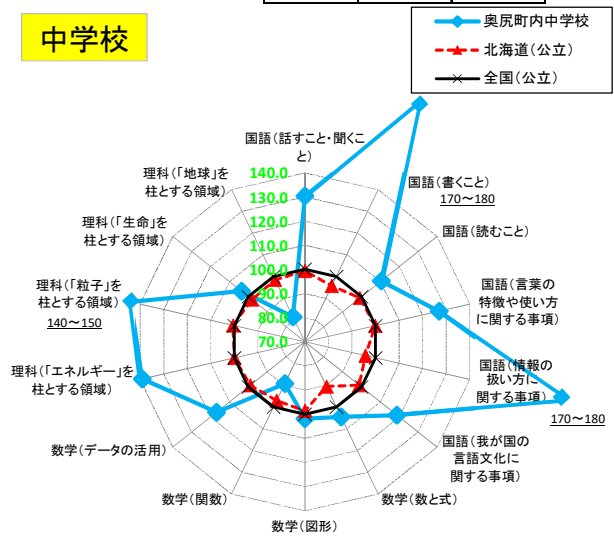
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	79	86
算数・数学	73	54
理科	77	56

小学校

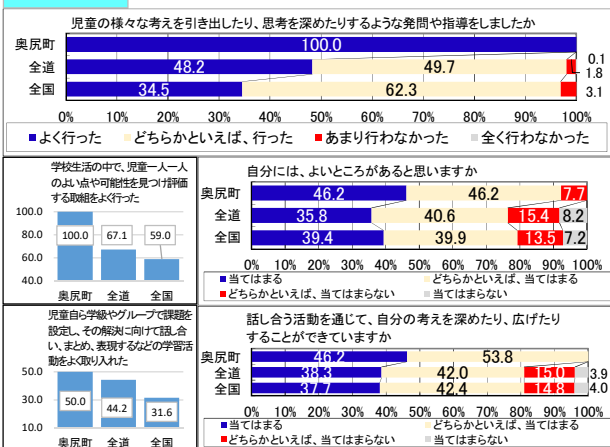


中学校

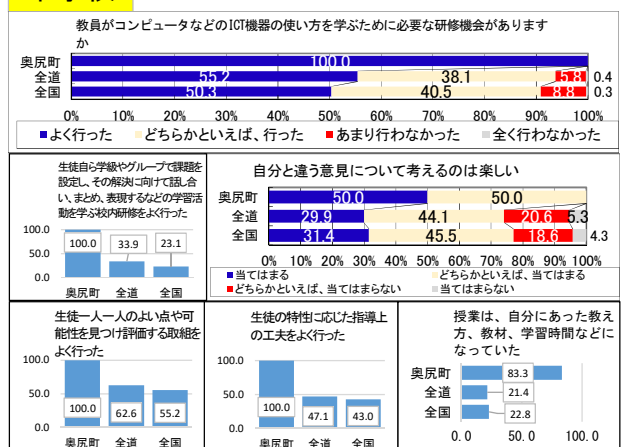


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
町内の全ての小学校において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をよく行ったことにより、全ての領域・事項で平均正答率が、全国及び全道を上回ったと考えられる。
町内の全ての小学校において「あたたかい人をつくるまちづくり」を推進するとともに、教師が児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組の充実を図ったことにより、自分にはよいところがあると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
町内の小学校において、話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を充実させたことにより、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
中学校において、ICT機器を効果的に活用する研修機会を確保し、ICT機器を効果的に活用する授業改善を進めたことにより、9領域3事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
中学校において、課題の解決に向けて対話的に学ぶ学習活動を充実するための校内研修を行い、生徒が対話的な学びを継続したことにより、自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。
中学校において、生徒一人一人のよい点や可能性を評価するとともに、生徒の特性に応じた指導を工夫したことにより、授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

【奥尻町の学力向上策】

- ◎ 家庭と連携した学習・生活習慣の一層の確立と主体的な学習態度の育成
- ◎ 小中連携によるICT機器の効果的な活用に向けた取組の推進
- ◎ 9年間で育てる児童生徒の姿を共有し、地域全体で学びを支援する取組の推進

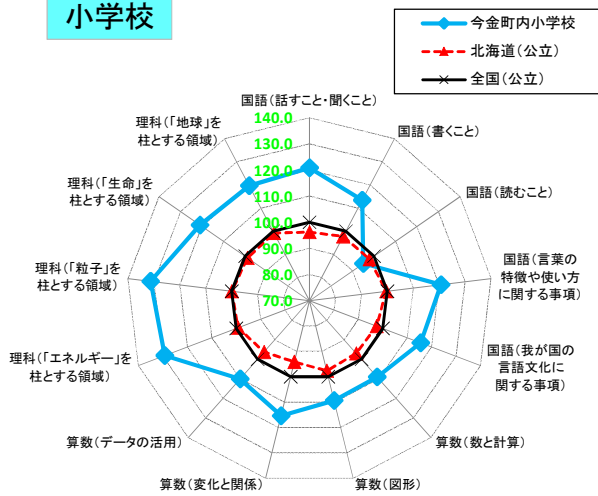
■今金町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:30人）（中学校数:1校、生徒数:36人）

【教科全体の状況】

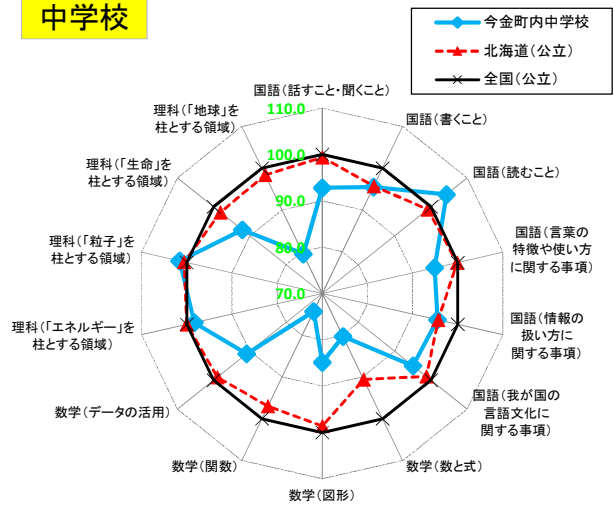
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	74	66
算数・数学	70	42
理科	79	46

小学校

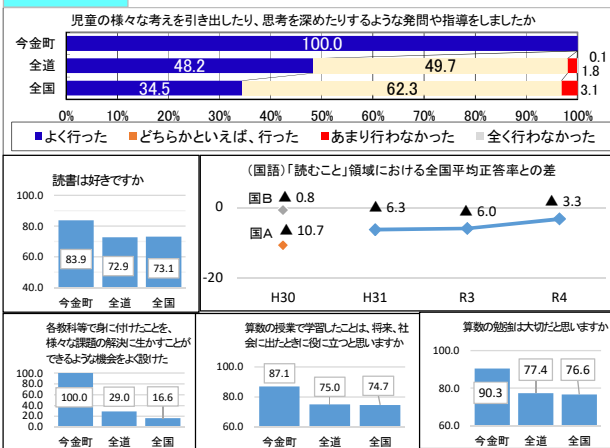


中学校

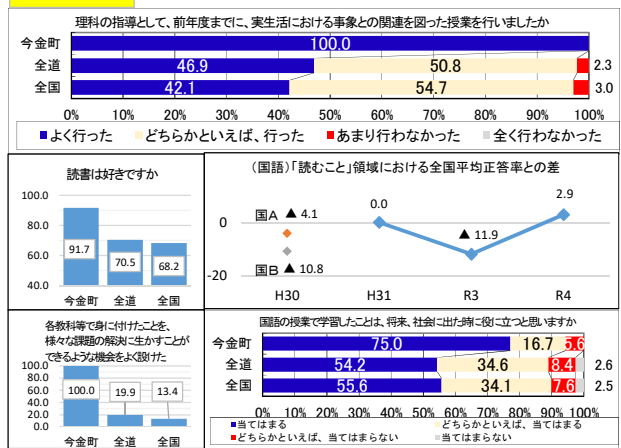


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町内の全ての小学校において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、10領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町内の全ての小学校において、町の重点目標の達成に向け、読書に親しむことのできる環境を設定したことにより、読書が好きと肯定的に回答した児童の割合が、全国及び全道を上回るとともに、国語の「読むこと」領域の平均正答率が向上したと考えられる。

町内の全ての小学校において、身に付けたことを様々な課題の解決に生かすことができるような機会をよく設けて指導したことにより、算数の授業で学習したことが、社会に出たときに役に立ちたいと考えたりする児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

中学校の理科の指導において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、理科の「粒子」を柱とする領域における平均正答率が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校において、町の重点目標の達成に向け、読書に親しむことのできる環境を設定したことにより、読書が好きと肯定的に回答する生徒の割合が、全国及び全道を上回るとともに、国語の「読むこと」領域の平均正答率が向上したと考えられる。

中学校において、身に付けたことを様々な課題の解決に生かすことができるような機会をよく設けて指導したことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【今金町の学力向上策】

- ◎ 「読書と作文のまち」を柱とした、学校・家庭・地域(団体)・行政が一体となった教育政策の推進
- ◎ 小学校第5・6学年児童と中学校生徒の持ち帰りでの端末活用やICT教育推進会議による取組の共有など調和のとれたICT教育の推進
- ◎ 今金町教育研究会による中学校1日体験入学の実施と小・中学校教員が異校種に乗り入れする授業の推進

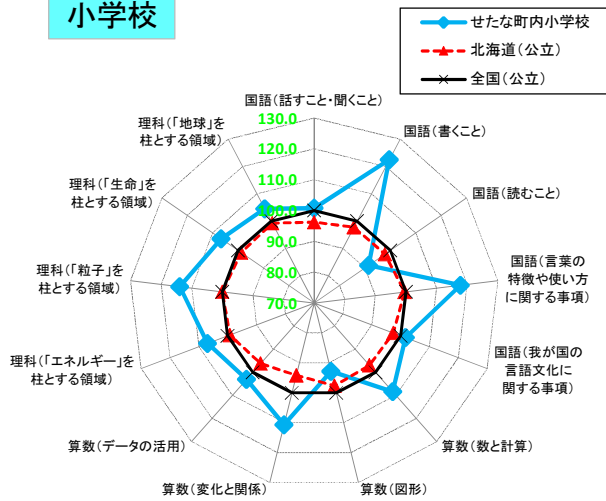
■せたな町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:48人）（中学校数:3校、生徒数:33人）

【教科全体の状況】

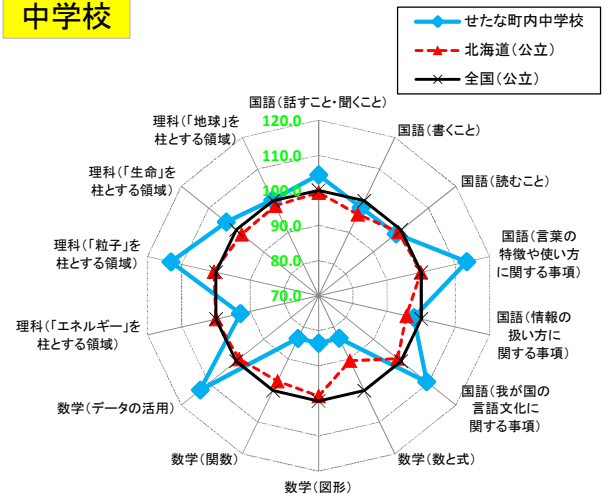
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	70	75
算数・数学	66	47
理科	69	50

小学校

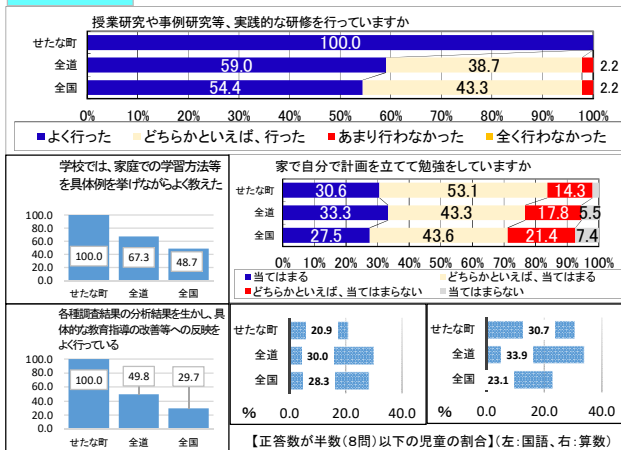


中学校

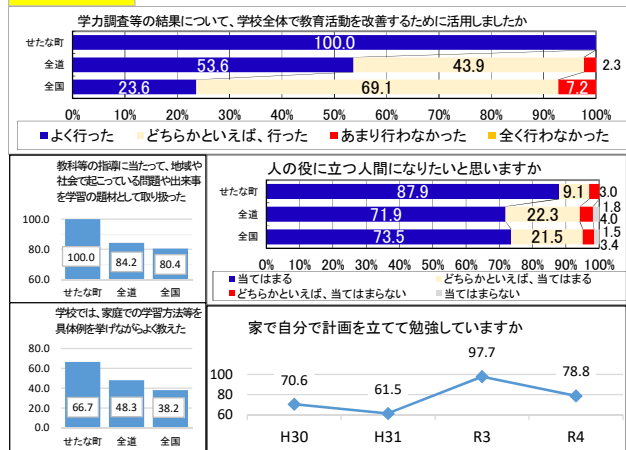


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町内の全ての小学校において、児童が主体的に学習活動に取り組み、授業研究等の実践的な研修に取り組んだことにより、9領域2事項において全国及び全道を上回ったと考えられる。

町内の全ての小学校において、児童が授業内容について理解し、家庭学習との関連を図った指導などを行ったことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしていると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

町内の全ての小学校において、各種学力調査の結果を分析し、学校全体で教育活動の改善や具体的な教育指導の改善を図ったことにより、国語と算数の正答率が半数以下の児童の割合が全国・全道より下回ったと考えられる。

中学校

町内の全ての中学校において、令和3年度の全国・学力学習状況調査の自校の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用したことにより、5領域2事項において、全国及び全道を上回ったと考えられる。

町内の全ての中学校において、授業の中で地域や社会で起きている問題や出来事を学習の題材として取り扱ったことにより、人の役に立つ人間になりたいと回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

町内の多くの中学校において、家庭学習の学習方法を具体例を挙げながら指導したことにより、家で自分で計画を立てて勉強していると回答した生徒の割合が増加したと考えられる。

【せたな町の学力向上策】

- ◎ 前後期に分けた「学力向上改善プラン」の作成や「生活リズムチェックシート」等を活用した生活習慣の確立
- ◎ GIGAスクール構想に基づく1人1台端末を中心としたICT機器の活用による学習環境の充実とプログラミング教育の推進
- ◎ 小・中学校長の同区内における学校運営協議会への参加による課題や求められる資質・能力の共有